

研究テーマ：認知負荷が変化の検出に及ぼす影響に関する研究

名列番号 009 数左 有紀

1. 目的

言語的な負荷が変化の見落としに与える影響を調べ、近年話題の運転中の携帯電話使用の危険性について検証する。

2. 研究方法

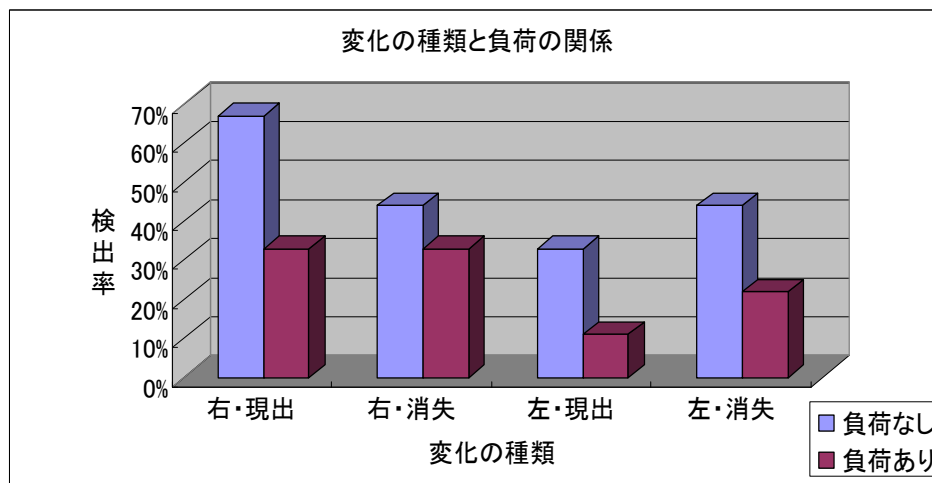
20 秒で対象物が段々変化する 8 種類の画像を用意し、各画像について
変化の位置 左にある/右にある 、 変化の種類 現れる/消える
の 4 パターンを作成した。

これらの画像を **HSP(Hot Soup Processor)** というインタプリタ型言語を用いたプログラムによって 20 秒ずつ表示し、被験者 9 人に対して負荷がある場合とない場合でそれぞれ 4 画像ずつ変化の検出を行ってもらった。

また、会話に近い状態を生み出すために、今回負荷として被験者同士でしりとりを行ってもらった。

3. 実験結果

負荷をかけた場合、平均で 48% 近い検出率の低下が見られた。



4. 考察と今後の課題

言語負荷が、驚くほど人の変化の認知に支障をきたすことが示された。左視野の検出率の低迷については、脳機能との関連も含めつつ検証が必要とされ、今後の課題となった。

5. 参考論文

Simons, D. J. et al. 「Change blindness in the absence of a visual disruption」
Perception. 2000;29(10):1143-54 より